

平成 27 年 度

中 学 校

入 学 試 験 問 題

国 語

4 5 分

受 験 番 号		氏 名	
------------------	--	--------	--

○受験番号・氏名は解答用紙にも書くこと。

一

次の——線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- 1 ジュンシンのな気持ち。
- 2 資料をモトに確認する。
- 3 わずかなサイが生じた。
- 4 夕暮れで道路標識をミアヤマる。
- 5 ホカらかな表情。
- 8 時間を割いて説明する。
- 6 著名な人物の直筆。
- 7 作物を出荷する。
- 9 仕事に就く。
- 10 時を経て注目される作品。

二

次の——線部の外来語の使い方として正しいものには「A」、正しくないものには「B」と書きなさい。

- 1 私が皆みなさんに紹介する本のジャンルは小説で、昨年に映画化されたものです。
- 2 日本には美しい四季があるということに、もっとコンプレックスを持ったほうがいい。
- 3 あの作品は、歴史上の人物を主人公として、事実だけではなくノンフィクションを交えて作られている。
- 4 次回の学級会のテーマは、「困っている人々のために自分たちが出来ることは何か」です。

三

次の文は漢字を説明したものである。それぞれにふさわしい漢字を答えなさい。(小学六年生までに習っている漢字を答えること)

例 にんべんにいう。 答え(信)

- 1 リっしんべんにおお。
- 2 ものにおおごと。
- 3 さんずいにした。

四

次のものを数えるときの単位をそれぞれ漢字で答えなさい。(ただし、「個」はのぞく)

例 手紙 答え(通)

- 1 本
- 2 自転車
- 3 短歌

五

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、字数に関する問いは、句読点や記号もすべてふくみます。(設問の都合上、本文を一部改変しています。)

ライオンがその地にはじめてやってきたとき、腹がへって、今にもぶったおれそうだった。かわいた草原がどこまでもひろがっている。ここにも食いものはなさそうだ。そう思ったとたん、からだがかくずれおちた。よこたわり、まんまるい月を見あげる。さいごに肉を口にしたのはいつだったか、ひとつきまえだったか、ふたつきまえだったか。

1

目をとじると、母のすがたが闇のなかにうかぶ。一瞬ひもじさをわすれる。

死んだら母に会えるだろうか。うつくしい金色の毛並みと、あまいにおい。

おさないうちに母がなくなり、ふるさとをはなれた。からだ小さく、たたかいにまけつづけた。くじけがちな心もわざわざいし、ながいあいだ居場所をもとめてさまよった。

A それもきょうで終わりだ。こうやって死んでいく。よこたわったまま、ふかい息をついた。

そのとき、とおくのほうでなにか、気配を感じた。どうにか頭をあげて目をこらす。とおくに見える一本のアカシアのしたに、なにかいる。

ブッシュだろうか。いや、すこしうごいた。動物のかげだ。シマウマか、ガゼルか。わからないが、たしかになにかがいる。ひっしでおきあがる。つかまえることはできないかもしれないけれど、

2

そりそりとかちがづいていく。そこにいたのはシマウマでもガゼルでもなかった。じぶんとおなじライオンだった。それもうしろすがただ。そのライオンのまえにはチーターがいる。さらにそのまえにはヒョウがいる。そうやって十頭ちかい肉ぐらいたちが、しずかにならんでいる。オスもメスもいるし、けもの種類もちがう。しかしあらず、じつとすわっている。どのものもやせており、毛づやがわるい。いったいこの列はなんだろう。かれは最後尾びについた。列はすこしずつすすんだ。先頭のもののはなにかうけとると、列からはなれていく。

まもなくかれの番になった。そこには、としをとったオスのライオンがいた。なにもいわずに赤い肉をひとかたまり、くれる。

食いものだ！ かれはむちゅうでむしゃぶりついた。あぶらののっていない肉だったが、これよりもまいものは食べたことがない。

① 肉のしるがまえついた前肢まへあしまでべろべろとなめてから、われにかえた。

「どうして肉をくれたんだ？」

としをとったライオンはだまっている。列にならんでいたものたちは食べおわり、それぞれしずかにさっ歩いていく。

② a だった。ほかのものに肉をやるより、じぶんで食べたほうがいい。見ると、としをとったライオンも、やせている。肉をやるゆとりがあるとは思えない。

「いつもこんなことをしているのか？」

としをとったライオンは、ぼそりといった。

「満月の晩だけだ」

「じぶんで食べたほうがいいじゃないか。どうしてほかのものにあげるんだ？」

あつというまにたいらげたことはたなにあげ、かれはたずねた。としをとったライオンは、すこしめんどうくさそうな表情をうかべ、それからこたえた。

「死にそうに腹をすかせたものがあるからだ」

ぶあいそうだが、やさしい気持ちなのだ。③ ライオンはうれしくなった。だれかに食べものをわけてもらったのは、母が死んで以来だ。

肉をもらったほかのものたちのすがたはもうない。でもかれだけは、としをとったライオンのそばによった。なにか、話したかった。とおいふるさとのこと。やさしかった母のこと。母が死んだこと。つらい日がつづいたこと。

やさしいものはきつとなくさめてくれるはず。しなだれかかるように、としをとったライオンを見つめる。

が、としをとったライオンは、こちらを見ることはなかった。だまったまま草原を歩いて行ってしまった。

肉のかたまりをひとつ食べたことで、すこし元気がでた。

3

ほかのライオンがいなくてここまで歩きつづけることができたし、つぎの日、ひさしぶりに食いものを——小さなイノシシだったが、つかまえることもできた。

そのうえ、大きな岩穴まで見つけた。ライオンは思いついた。夫婦のネズミをつかまえてこの岩穴でふやすのだ。そうすれば、食いものにこまらない。さっそくつかまえたネズミを岩穴にいれ、いりぐちを石でふさいだ。これがおもしろいほどうまくいった。しかしネズミは何匹ひき食ったところで、腹はふくれない。

さらによい方法はないか。すぐにひらめいた。この岩穴にもっと食べがいのあるものをとじこめよう。

④

だけ、食べたいものが食べられる。

⑤ であらめな思いつきだったが、いきおいがあるときはなんでもうまくいくものらしい。つぎの日、ライオンはインパラのむれを見つ、うまいぐあいに岩穴においこむことができたのだ。十数頭のインパラだ。いそいで、いりぐちを大きな石でふさぐ。

これでどうぶん、食いものにこまらない。ライオンはおどろだしい気分だった。草や木の葉を岩穴にほうりこんでおけば、インパラは生きていられる。腹がへったとき、いつでもあたらしい肉が食べられる。わかいライオンは、じぶんの頭あたまのよさにしびれた。

かれがすばらしい食べものをたくさんもっていることを、どうやって知ったのか、まもなくメスのライオンが何頭もやってきた。「いっしょにくらしたいんです」という。子分にしてくださいと、たのみこむオスのライオンまでやってきた。

ライオンはよろこんでメスをむかえた。自分のオスは、じぶんよりも小さくてよわそうなことを注意深くたしかめた。

こうして思いがけなく、じぶんのむれをはじめもつことになった。ライオンはすっかりうかれた。かれのむれは狩りにいく必要がないからのんびりとしている。腹がすけば岩穴からインパラを一頭ずつひっぱりだして食うだけだ。

毎日、うららかな草原でしゃべった。ライオンはじぶんの話をするのがなによりも好きだった。母がはやく死んだこと。そしてそのあとの苦勞。むれのものたちは口々にリーダーをなぐさめてくれる。

「苦勞をのりこえて、よくがんばりましたね」

「これからはゆっくりとすごしてください。あなたはもうじゅうぶん、がんばりましたから」

「どうかむりをしないでくださいね。そのままのあなたでいいんです」  
ライオンはこういった言葉がだいすきだった。

ある日、岩穴のインパラが一頭のこらず消えたのだ。なんのことはない、すべて食いつくしただけのこと。

まばたきするよりもはやくメスがなくなつた。子分のオスはきばをむきだし、かれを威嚇した。

からだをくるんでいたやわらかなものが、いきなりはぎとられた。空をふわふわとんでいたのが、かたい地面につきおとされた。ながいあいだ狩りに行かなかつたからだはおもかつた。コオロギ一匹、つかまえられない。なんにちも歩きつづけた。ときどき、なぐさめのことを思い出した。

「がんばりすぎないで」

「そのままのあなたでいいんです」

④むなしくて、のたうちまわつた。もうだめだ。死にそうだ。

たおれそうになつたとき、草原のおくに一本のアカシアが見えた。そして、そのしたに、けものかげをみとめた。もしかして……。あれは半年まえだったか、一年まえだったか。

空を見あげると、まんまるい月。そうだ、満月の晩だ。ひっして歩きはじめた。

まえに見たのおなじように、やせたライオンやチーターがならんでいる。

かれはまた最後尾についた。見おぼえのあるとしをとつたライオンが、いちばんまえにいた。ならんでいるものたちに肉をくばつて  
いる。

かれの番になつた。肉をひとかたまり、もらう。むしゃぶりついた。うまい。あつというまに食べおわると、としをとつたライオンを見た。

こちらをおぼえているかどうか、わからない。としをとつたライオンはあいかわらずぶあいそうで、だまつている。

4 なにも聞かれたくないし、なにもいわれたくない。ここちよい言葉は、聞いた一瞬は元氣になれるが、すぐに消えていく。肉をもらったものたちは、まえとおなじように、すぐにちつていなくなつていた。かれは、行かなかつた。

としをとつたライオンがよゆうがあるわけではないことは、やせたそのすがたからもよくわかる。それなのになぜ満月の晩になるたび、すくない食べものをわけつづけているのか。

「どうして、ほかのものに肉をやるんだ」

としをとつたライオンがぼそりとこたえた。

「死にそうに腹をすかせたものがあるからだ」

まえとそっくり、おなじこたえた。

としをとつたライオンは歩きだす。ライオンは、としをとつたライオンのあとをついていった。まだ聞きたりない。

としをとつたライオンはふりかえり、わかいライオンがついてくるのを見たが、おいはらうことはしなかつた。

月がかたむいてきた。

二頭のライオンは一列になり、草原をだまつて歩きつづけた。

やがて小高い丘に、としをとつたライオンはのぼつていった。そこにねぐらがあるのだろうか。

丘のうえまでのぼると、草原がとおくまで見わたせた。

そろそろ夜明けだ。地平線が、一本の金色の線のようにかがやきだした。

太陽のあたまたが地平線から出てくる。まるで金のさらにわつた黄金のたまごだ。

ライオンは思わず見とれた。

「なんてきれいなんだろう」

としをとつたライオンも立ちどまつた。おなじように太陽をながめてからふりかえる。

「どうしてきれいなのか、わかるか」

とつせんの問いだった。ライオンはあわてて考える。空気がすんでいるからか？ 太陽が大きいからか？

こたえまどつていると、としをとつたライオンがいった。

「生きているからだ」

わかいライオンは、はつとした。

もういちど金のたまごのような太陽を見つめる。

やっぱりきれいだ。見ることができてよかったと思うほどきれいだ。  
なるほど。ライオンはすなおにうなずいた。

としをとったライオンがふたたび歩きます。かれはもうついていかなかった。としをとったライオンの背に向かっていう。  
「ありがとう」

丘をおりはじめた。

まず、からだをやすめる場所をさがそうと思った。それから食いものをさがしにこう。

そうやって、B 死ぬまではたしかに生きよう。

あたりまえのことだったが、そんなふうにライオンが考えたのは、はじめてだった。

(魚住直子『光る地平線』)

問一

1 5 4

にあてはまる文として最もふさわしいものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A そのため、こころが温かくなった。

I いのちがいくらかのびた気がした。

U さいごのチャンスだと思った。

E たぶん死ぬのだ、とかれは思った。

O だが、今はそれがうれしい。

K むりをしないのも一案であろう。

問二

線部①「肉のしるがついた前肢までペロペロとなめてから、われにかえた」とありますが、どういうことですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

A 自分の存在を違和感なく目立たないようにするため、周囲の様々なものたちと同じ行動をすることに集中していたが、心の片すみにいっていた本質的な疑問を改めて考え直している。

I 空腹を満たすことばかりに心がとらわれてしまっていたが、毛づやが悪くやせている様々な動物たちが、なぜ列をなしていたのかという根本的な疑問を思い出している。

U ひもじい思いが極限の状態まで続き、肉体だけでなく精神にも影響があらわれていたが、肉を食らうことによって自分が肉食のけものであることを呼びさましている。

E 「しる」までなめるほどいやしい食べ方を恥じ、自分の生き方そのものを改めて考え直し、百獣の王であることの威厳を回復する必要があると感じている。

問三

①a にあてはまる三字の熟語を答えなさい。

問四

線部②「ライオンはうれしくなった」とありますが、なぜうれしくなったのですか。六〇字以内で説明しなさい。

問五

②b にあてはまる最もふさわしい語句を次から選び、記号で答えなさい。

A それにしても

I しかも

U そして

E そうすれば

問六

——線部③「でたらめな思いつきだった」とありますが、その後の結果から考えて、どのような思いつきだったと言えるのでしょうか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ライオン社会が代々教わる伝統的な狩りの方法とは異なり、獲物を岩穴に追い込むという独創的だが自分勝手な思いつき。  
イ 狩りに行く努力をすることもなく、岩穴に閉じこめた動物を食べ続けて生きていけると考えた都合のよい思いつき。  
ウ 生きるか死ぬかのきびしい戦いをするのもなく、メスや子分のオスを魅了し群れを形成できると考えたその場限りの思いつき。

エ 岩穴でネズミはうまくふえていったので、生態系のちがうインパラでもふえていくだろうと考えた無知な思いつき。

問七

——線部④「むなしくて、のたうちまわった」のはなぜですか。最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 優しく自分を支えてくれることばがなつかしく、再びメスのライオンや子分のライオンから語りかけてほしいから。  
イ 空腹の状態で何日も歩き続ける中、なぐさめのことばにすべてをゆだね、自然の流れに身を置こうと自覚しているから。  
ウ 自分を守りなぐさめてくれたことばが、皮肉なことに安らかな生活を失ってしまったことをより認識させるから。  
エ 平安で幸せな生活をこわし、思いもしない裏切りの行動をした無責任なライオンたちをことさら責めているから。

問八

——線部B「死ぬまではたしかに生きよう」とは、どのような思いだと思えますか。——線部A「それともきょうで終わりだ。こうやって死んでいく。」の後、「わかいライオン」の思いがどのように変化したかを考え、一二〇字程度で答えなさい。

## 六

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、字数に関する問いは、句読点や記号もすべてふくみます。(設問の都合上、本文を一部改変しています。)

ファミリーレストランに行つてメニューを開くと、たとえば「ハンバーグ定食、八百九十キロカロリー」などと書いてあります。体重が気になる人は、できるだけカロリーの少ないものを選ぶかもしれませんが、けれども、食べ物をカロリーに換算すると、生命現象の非常に大事な側面を見失ってしまうことになりました。

食べ物はカロリー源であり、私たちはそれを燃焼させて熱エネルギーにし、体温や運動のエネルギーに変える。私たちの体内には自動車のエンジンのようなものがある、ガソリンをそそぎこめば、それを燃やして運動のエネルギーに変えて、自動車つまり体を走らせることができます。

しかし、ルドルフ・シェーンハイマーという一人の科学者は、食べ物というのは、単なるカロリー源ではないということを明らかにしたのです。

シェーンハイマーの実験は非常にシンプルなものでした。ネズミに食べ物を食べさせて、その食べ物の分子がネズミの体の中に入ったあと、どこへ行き、どうなるかを追跡していったのです。彼は、元素に目印を付け、その元素を、<sup>キ</sup>アミノ酸を作り、ネズミに三日間、食べさせました。

最初はシェーンハイマー自身も、食べ物は体内で燃やされて、何時間か、あるいは何日かあとに、目印を付けた元素をふくむ燃えませんが、呼吸や糞尿の中に排泄されると予想していました。

ところが実験の結果は、シェーンハイマーの予想をめぐりに裏切りました。目印を付けたアミノ酸は全身に飛び移り、その半分以上が、脳、筋肉、消化器官、骨、血管、血液など、あらゆる組織や臓器を構成するタンパク質の一部となって、その場にとどまっていたのです。

しかし、その三日間で、ネズミの体重は増えていませんでした。このネズミは大人のネズミだったので、成長しないで、ほぼ同じ体重でとどまっていたのです。食べ物には重さがあります。食べ物がネズミの体の一部になったのなら、その食べ物の分の重さがネズミの体重に加わるはずですが、なに、体重が増えないということは、何を意味しているのでしょうか。

①このことから、食べ物は体の中に入って、体の一部に変わるけれども、もともとそこにあった分子は分解され、体の外に捨てられた、ということが考えられます。つまり、食べ物の分子は、単にエネルギー源として燃やされるだけでなく、体のすべての材料となって、体の中にとけこんでいき、それと同時に、体を構成していた分子は、外へ出ていくということです。

実際に、実験の次の段階で、**A** 食べ物をそのネズミに与えると、今度は、その食べ物がネズミの体の一部となっていた **B** 食べ物は、分解されて、排出されました。このようにして、食べ物は体の中を通り抜けていく。しかし、「通り抜けていく」という言い方は正確ではありません。

なにか、実体があつてその中を通り抜けていくわけではなく、食べ物の分子そのものが体を一瞬作り、それが分解されて、また流れていく。体というふうに見えているものは、そこにずっとあるわけではなくて、絶え間なく合成され分解されていく、流れの中にあるのです。

皮膚や髪は、\*2 剥落したり抜けたりするので、入れ替わることが実感できますが、硬くてかちりした印象をもつ骨や歯のようなものでも、その中身は入れ替わっています。体のすべての分子は食べ物の分子と絶え間なく入れ替わり、全体として流れているのです。このようにして、シェーンハイマーは、生命が絶え間ない流れにあることを明らかにし、そのありように「動的平衡」という名前を付けました。

だとすれば、なぜ生命現象は合成と分解を絶え間なく繰り返し返さなければならぬのかという疑問が、当然わいてきます。これも生命にとって本質的な疑問ですが、実は、簡単に答えることができます。

× 生命現象は、今からおよそ三十八億年前(三十七億年前という人もいます)のある地点で、非常に偶然なことがおき、地球上に発生して、現在まで続いています。三十八億年間にわたって、ある秩序をずっと維持し続けようとしたら、どのような方法が考えられるでしょうか。

たとえば、豪雨、暴風、地震がきてもだいじょうぶで、長持ちする家を作ろうとしたら、わたしたちは、どうするでしょうか。普通は、しっかりとした土台を作り、そこに腐食しない骨組みをたて、家の外壁を特殊なパネルで覆って、頑丈にしようします。あるいは、最近の高層マンションは、地中何メートルもの深いところにパイル(柱)を打ち、地震などに備えようします。しかし、非常に強固に頑丈に作ったものであつても、二十年、三十年も経てば、大規模な修繕をしないと維持できません。百年も保たれる建造物は、そうありません。

ところが、生命現象はほとんどメンテナンス(手入れ・修繕)をしないまま三十八億年間、その仕組みを維持し続けています。たとえば、人間の個人の命を考えても、八十年、九十年、百年くらいまでは、いろいろな老化現象は起こりますが、メンテナンスフリー(手入れをしない)で維持できます。その秘密が、動的平衡状態にあるのです。

この世の中にあるすべての物は、常に壊れる方向に向かっていきます。どんなに頑丈に作っておいた家でも、ボロボロになっていきます。このように、物事が **C** から **D** の方向へ進むことを、物理学では、\*4 エントロピー増大の法則といひます。秩

序あるものが壊れる方向にしか動かないというのは、人間にとってどうしようもないことです。

しかし、生命現象は、それに対抗する方法を編み出しました。エントロピー増大の法則が秩序を壊してくることに先回りして、まずみずから自分を壊してしまふ、という方法です。

つまり、動的平衡状態の維持というのは、エントロピー増大の法則に対抗し、絶え間なく、みずから分解して、それを作り替へることによって成り立っているということになります。エントロピー増大の法則に少しだけ先んじるこの方法は、秩序を絶え間なく維持するための、唯一の手段として編み出されたものであり、それこそが生命現象なのです。

(福岡伸一『生命と食』)

語注

\*1 アミノ酸・・・生命にとって重要な物質であるタンパク質を作るもの。

\*2 剥落・・・剥げ落ちること。

\*3 腐食・・・腐ってくずれさること。

\*4 エントロピー・・・無秩序さ、不規則さの度合いを示す量。

問一 ———— 線部①「このこと」の内容として最もふさわしいものを次から選び、記号で答えなさい。

ア ネズミの食べたものにふくまれていたアミノ酸が、体内で燃やされて排出されたのに、体重が減っていないこと。

イ ネズミの食べたものにふくまれていたアミノ酸が、ネズミのからだの一部となって体重が増加した分、他のアミノ酸が燃やされて体重が増えないこと。

ウ ネズミに食べ物を食べさせて、その食べ物の分子がネズミの体の中に入ったあとを追跡することで、ネズミの体重の増減を調べたこと。

エ ネズミに食べ物を食べさせる時に、元素に目印をつけて、目印のついた元素がどれだけ排出したかによって、ネズミの体重の増減を調べたこと。

オ ネズミの食べたものにふくまれていたアミノ酸が、体内のタンパク質の一部となつてとどまっていたのに、ネズミの体重が減っていないこと。

問二

- A・B にあてはまる語句として最もふさわしい組み合わせを次から選び、記号で答えなさい。
- |   |   |           |   |           |
|---|---|-----------|---|-----------|
| ア | A | 重さのない     | B | 重さのある     |
| イ | A | 重さのある     | B | 重さのない     |
| ウ | A | 目印を付けた    | B | 目印を付けていない |
| エ | A | 目印を付けていない | B | 目印を付けた    |
| オ | A | 燃焼しない     | B | 燃焼する      |
| カ | A | 燃焼する      | B | 燃焼しない     |

問三

線部②「動的平衡」の説明として正しいものを次から二つ選び、記号で答えなさい。

- ア 食べた物の一部が、体内にあった物質の一部と入れ替わること。
- イ 食べ物が体内を通り抜けていく途中で、そのすべてがさまざまな器官に吸収されても、体重に変化がないこと。
- ウ 食べ物は体内に入ると体の一部になり、もとにあった物質は燃焼して体の外へ出ること。
- エ 人はものを食べることによって、その体を絶え間なく合成し、分解しているということ。

問四

C・D にあてはまる語句として最もふさわしい組み合わせを次から選び、記号で答えなさい。

- |   |   |    |   |     |
|---|---|----|---|-----|
| ア | C | 組織 | D | 非組織 |
| イ | C | 完成 | D | 未完成 |
| ウ | C | 秩序 | D | 無秩序 |
| エ | C | 建設 | D | 破壊  |
| オ | C | 閉鎖 | D | 開放  |
| カ | C | 合成 | D | 分解  |

問五

線部X「生命現象」と線部Y「長持ちする家」との間には、どのような違いがありますか。本文の内容にもとづいて百字以内で説明しなさい。ただし、「エントロピー」ということばを必ず用いること。

問六

この文章は次の図のような三段階に展開されている。それぞれの段階の説明として最もふさわしいものを選び、記号で答えなさい。



